

中学生の学習行動に関する自己理解支援ツールの作成 — 実行機能スキルのセルフチェックとその効果 —

吉田かえで¹ (大阪教育大学附属池田中学校)

寺坂明子² (大阪教育大学)

【問題】

- ① 学校教育では、学年が上がるにつれてより複雑な課題管理が求められる。その困難が学業成績の低下の一因となること、特に中学校がその転機となりやすいことが指摘されている(Jacobson et al.2011)。
- ② 特別な教育的支援を必要とする生徒が通常学級に一定数在籍している(文部科学省, 2022)。
→ 中学校段階で、学習における課題管理や計画遂行に影響する「実行機能」に着目した支援を行うことは有用である。

【目的】

- ① 学習に関わる実行機能スキルをセルフチェックするためのツールを作成し、個々の生徒の強み・弱みを可視化する
- ② 結果のフィードバックとスキル強化のアドバイスの提示が、自己理解や学習における困難の改善に役立つかを検討する

【実行機能スキルのセルフチェック】

対象: 近畿圏国立大学附属A中学校3年生145名(有効回答121名)
実施時期: 2024年12月
手続き: 校内支援委員会による支援の一環として、学活の時間を利用し、オンラインで一斉実施
セルフチェックツール:
① 日常生活における実行機能スキルを5つの領域(計画管理, 時間管理, 整理, 感情調節, 行動調節)から測定するExecutive Function Skills Questionnaire (ESQ-R: Strait et al. 2019) 25項目を邦訳して用いた。
② 診断コンテンツ作成ツールJudgeを使用して、領域ごとに10点満点に換算した値が回答終了後にグラフ表示されるようプログラムした。
③ 結果表示画面のリンクボタンから、各領域のスキルの解説とスキルを強化するための方法(アドバイス)を記載したページが表示されるようにした。

【結果】

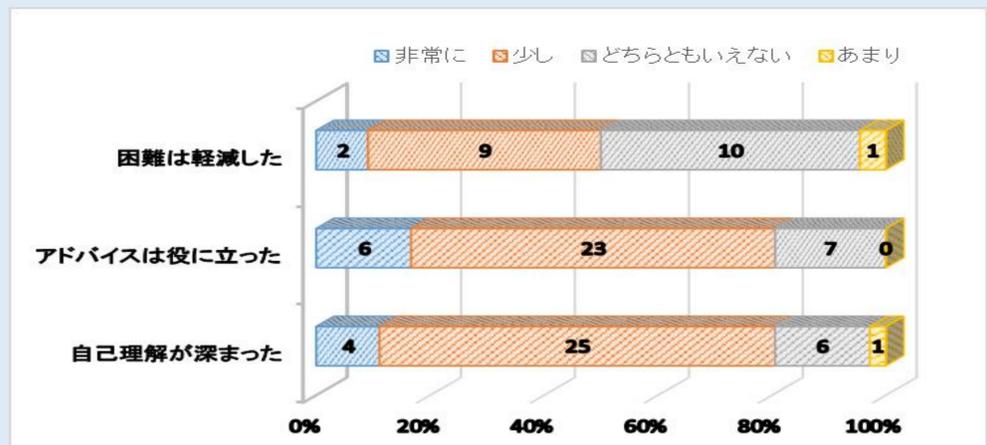
- ① セルフチェックを行った生徒は121名(83%), うち2週間後の事後調査に回答した生徒は36名(30%)
- ② 実行機能スキルの5領域の平均値
「計画管理」4.9±2.2
「時間管理」5.2±2.4
「整理」6.1±3.1
「感情調節」4.0±2.6
「行動調節」5.6±2.5
- ③ 特に「整理」の領域で困難を感じている生徒が多いことが示唆された。

【事後調査】

実施時期: 2025年1月(セルフチェックの2週間後)
対象: セルフチェック実施者のうち(有効回答者36名)
調査内容: 9項目に関する質問
① 学習において困っていること②セルフチェックにより自己理解が深まったか③結果と実感の一致度④セルフチェックにおける気づき⑤解説やアドバイスは役に立ったか⑥アドバイスを取り入れてみたか⑦アドバイスの行動後の困難の軽減度⑧ほしいツールやサポート⑨意見や感想

【結果】

- ① 事後調査では、学習で困っていることとして、「集中できない」「計画的にできない」「やる気が起きない」
- ② セルフチェックに関しては、約8割が自己理解が深まり、解説やアドバイスが役に立ったと回答(非常に～少し)。
- ③ アドバイスを読んで実践した生徒は、内容ごとに3%～64%であり、うち約半数の生徒が多少なりとも困難が軽減したと回答



【 図2 事後調査 回答の割合 】



【 図1スキル領域ごとの困難度得点の分布(得点が高いほど困難) 】

【まとめ】

- ① 実行機能スキルのセルフチェックと結果のフィードバックが、中学生が学習における認知特性を理解するうえで有用である。
- ② 具体的なアドバイスの提示により生徒の行動変容が促され、学習上の困難が軽減する可能性が示唆された。
- ③ 行動変容の必要性を感じても実践しない、あるいはやり方が分からず実践できない場合もあることが窺え、より具体的な支援やフォローの必要性も示唆された。